

子ども達が学びの中心となるには

佐久市立岸野小学校 畔上祐衣

研究概要

社会で活用できる力を身につけていくためには、「これからを創る中心にいるのは自分たちだ」という発想が必要ではないかと考えた。そこで、総合的な学習の時間において「これからを創っていく」という発想が子ども達の姿をどう変えたのか検証した。

研究実践

単元名 ※4つの小単元で構成
「佐久市のよさを伝えよう～働いている人の目線から～」

1. コロナ禍における佐久市の現状を知ろう
2. おすすめスポットを紹介するために働く人にインタビューをしよう
3. 働く人の目線でよさを伝えよう
4. 地域に発信しよう

単元の始まり

「働いている人達は、困っているのではないか」

クラスで共有

「自分たちの活動を通して地域活性化を図りたい」という思い

活動へ

小単元①

佐久市長さんと
商工会議所青年部長さん
→現状を知るために取材

感想に止まった新聞

△「これからを創っていく」
一員であるという発想の
誕生がまだ不十分である。



小単元②

「発信相手を具体的にする」

- ①佐久市のよさを誰に伝えたいのか
- ②自分が考えた相手にお勧めするポイントとして何を優先するべきなのか

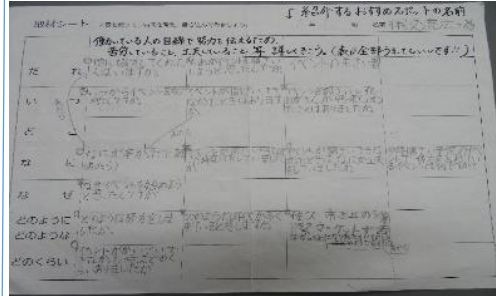
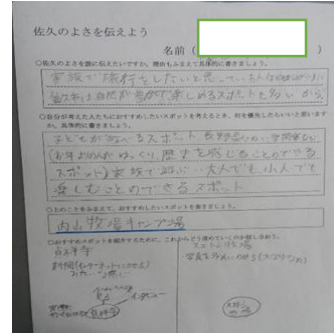
①について
「対象者：家族（3世代家庭）」

②について

- ・佐久市は自然が豊かで楽しめるスポットが多い。大人も小人も楽しむことのできるスポット。

(例)

スエトシ牧場



取材シートの作成
の作成
・5W1H
・下調べ
・行った経験等
↓
シートを
基に取材



取材



自分たちの目的を明確にし、一人一人が役割を担い、責任をもって取り組む姿勢をもった上で実際に企業や施設に取材を行った。

○「これからを創っていく」一員であるという発想の誕生が見え始めた。

小単元③

発信相手を再確認しながら発信方法を考える。



「発信相手が小さい子供がいる家族だから、ポスターがいい。写真を多く入れれば小さい子にも伝わりそう。」

グループでアイディアを出し合って作業
→お互いの意見を取り入れ最善の方法を模索する姿

実践の考察

活動を通して最も印象的だったのが、集めた情報を「まとめる」のではなく、「見る人の立場に立って作成する」姿だ。このことから、相手の立場に立って考えられる力が身についてきたということが感じられた。同時に「これからを創っていく」という発想の誕生であり、主体的・対話的に学ぶ姿勢につながっていくのではないかと感じた。